



平成22年2月12日

各 位

会 社 名	株式会社ウィル
代 表 者 名	代表取締役 岡本 俊人 (コード番号：3241)
問 合 せ 先 役職・氏名	取締役総務グループマネージャー 粟野 泉
電 話	0797-74-7272

### 「継続企業の前提に関する注記」の記載解消に関するお知らせ

当社は、本日発表の平成21年12月期決算短信において、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消することになりましたので、下記の通りお知らせいたします。

#### 記

当社グループが属する不動産業界におきましては、世界的な金融市場の混乱による信用収縮拡大、金融機関の不動産会社に対する融資姿勢の厳格化などの影響を受け、不動産市場の全般的な悪化が深刻化するなど、厳しい経営環境が続いてまいりました。

このような状況の中、当社グループは前連結会計年度（平成20年12月期）におきまして、業績の低下、積極的な在庫処分、並びにたな卸評価損等の特別損失を計上した結果、営業損失313,373千円、経常損失355,062千円、当期純損失639,538千円と創業以来初の赤字を計上しました。また、当連結会計年度（平成21年12月期）におきましても、第3四半期連結累計期間まで継続的に営業損失を計上するなど、継続企業の前提に関する重要な疑義を抱かせる事象又は状況が存在しておりました。

このような状況を解消すべく、当社グループにおいては、財務状態の健全化に向けて、不採算事業からの撤退、プロジェクト融資を物件の販売進捗に連動させた返済方法への変更、販売体制の拡充による開発分譲事業の売上拡大、店舗統合などの営業体制効率化による流通事業の収益性向上、固定経費等の抑制によるコスト削減を図ってまいりました。

この結果、第4四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日）におきましては営業利益97,033千円、経常利益82,350千円、四半期純利益82,097千円と黒字回復を果たしました。

また、有利子負債につきましては、最も残高の多かった平成19年10月末現在の残高が7,692,503千円であったものが、当連結会計年度末（平成21年12月31日）現在3,038,533千円と2年間で60.5%削減し、財務状態のスリム化も図ることができました。

これらの経営改善のための施策の実施による効果が実現したことによって、現時点では継続企業の前提に関する不確実性が解消されたものと判断し、当該注記を解消いたしました。

株主をはじめとするステークホルダーの皆さまには、大変ご心配をお掛けいたしました。今後も全社をあげて業績向上と企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上